

一般入試前期B日程

国語

I

出典 碧海純一『法と社会』

法と社会との関係や法学理論について書かれた法学の入門書です。出題箇所では法の周辺分野と社会との関係が論じられています。論旨は明快で主張も明確ですから、内容自体を理解するのはさほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は①～⑦)

a 誇張 b 霊長 c 恩恵 d 享受 e 公益 f 機構 g 念頭 がそれぞれ正解です。同音異義の漢字も含まれていますから、文脈のなかで判断することが肝要です。「公益」が受験者の皆さんにはあまり馴染みのない言葉かもしれません。「享受」は正解者が少なく、「念頭」は大半の人が正しく書いていました。

問2【文脈把握による空欄補充】(解答番号は⑧)

空欄Ⅰは「および」とそれに続く「構造上」がヒントになります。空欄Ⅱには「思想史」しか入りませんので、それ以外の選択肢はすべて排除されます。そのうえで、「強い拘束力をもって」いて個々人が勝手に「シロをクロ」と言うように「既成の社会的約束を無視したことばづかいをすると、伝達過程はひどく混乱してしまう」という言語の特質を手がかりにすると、空欄Ⅲと空欄Ⅳには、それぞれ「実際」と「理論」が入ることが分かるでしょう。正答率は12%でした。

問3【文脈把握による空欄補充】(解答番号は⑨・⑩)

正解は①と⑧です。前後の内容から「たしかに」と「しかし」の呼応を見つけ出せるかどうか鍵になります。空欄Ⅴについては多くの人が正しく「しかし」を選んでいましたが、「たしかに」を選べた人は少なく、完答問題の正答率はわずか5%にとどまりました。

問4【文脈把握による空欄補充】(解答番号は⑪)

直後の「フィードバック関係」と「ここでもふたたび」がヒントで前段落の内容から正解は⑤になります。正答率は51%でした。

問5【文脈把握による空欄補充】(解答番号は⑫)

正解は⑥です。直後の「全体主義」や直前の「個人」は「個々の細胞」がヒントです。正答率は39%です。

問6【文脈把握と表現問題】(解答番号は⑬)

正解は⑥です。「ように(ような)」「ごとく」は明喩(直喩)ですから排除されます。①はイギリスの詩人バイロンの言葉、④は古代ギリシアの哲学者アリストテレスの言葉、②と③は単に事実を述べたものですから比喩ではありません。正答率は49%でした。

問7【文脈把握と理由説明】（解答番号は14）

正解は⑥です。次段落の「第一に」と「第二に」の内容がヒントになります。正答率は72%とよくできていました。

問8【文脈把握と指示内容理解】（解答番号は15）

正解は⑤です。「このこと」ですから傍線部より前の事柄を指し、述部から「比較的新しいこと」に限定されます。①と②は大昔から知られている事柄ですので除外されます。直前の文は「非常に大きく」となっていますから「成り立っている」を修飾する（程度の）副詞です。程度は必ずしも数の多さを意味しているとは限りません。⑥の「多くの」は、数（数量）についての説明であり、しかも「社会基盤」とまでは言われていませんので不正解となります。正答率は31%でした。

問9【文脈把握と理由説明】（解答番号は16）

「そうはゆかない」の内容を正しく理解すれば、⑤以外の選択肢が正解になりえないことが分かるでしょう。正答率は43%でした。

問10【内容理解による小見出し選択】（解答番号は17）

正解は④です。この小節の末尾を読めば、正解を得ることは容易でしょう。正答率は48%でした。

問11【内容理解による小見出し選択】（解答番号は18）

「社会契約」説や「性善説と性悪説」そのものをメインに論じているわけではなく、「人間の本性」と「社会」との関係を論じているので正解は⑦です。正答率は22%でした。

問12【内容合致】（解答番号は19）

正解は②です。①が誤答であるのは、「エピクロス」が「性善説」に数え入れられているからです。それ以外の選択肢も本文を注意深く読めば、正解にはなりえないことが分かるでしょう。正答率は48%でした。

II

出典 山本義隆『一六世紀文化革命1』

無名の職人によって作られていた「工芸品」が、天賦の才能に恵まれた芸術家による「芸術作品」に変貌をとげる一六世紀の芸術観について論じています。チェンニーノとギベルティの革新性を正確に把握することが大切です。

問1【漢字の読み取り・書き取り問題】（解答番号は20～26）

a さげす b 由緒 c 風情 d 発祥 e 油彩 f 前代未聞 g 感化

全問正解者は3%でした。前代未聞の「聞」を「門」や「問」と書く答案が目立ちました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は 27）

「工芸品」を作った人々と「芸術作品」を作った人々とを対比的に述べている文の構造に着目すれば、空欄 Ⅲ に職人が、空欄 I に芸術家が入る文脈として理解できるでしょう。正解は⑤です。正答率は37%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は 28・29）

空欄 甲 は、熟語の正確な意味を問う問題でもあります。直前の例示から「はっきりと」「明瞭に」などの意味になる熟語であることが分かります。正解は⑥で、正答率は25%でした。空欄 乙 は、直前の「好みのまま如何様に」や直後の「好きなようにその想像力のおもむくままに」と結びつく言葉であることがヒントです。正解は⑤です。正答率は91%でした。

問4【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は 30）

職人の地位がどのようなものであったかを示す前の段落の例示をよく読めば、容易に解答できるでしょう。正解は⑥です。正答率は61%でした。

問5【空欄補充 内容理解に関する問題】（解答番号は 31）

徒弟制度の効用を認める一方で、自然主義への依拠も述べているため、両者を矛盾なく繋ぐ言い回しになります。正解は④です。正答率は47%でした。

問6【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は 32）

二つ後の段落で「未消化な借り物」「オリジナリティやエレガンスにかけている」と繰り返していることに気づく必要があります。正解は④です。正答率は26%でした。

問7【傍線部の理由 内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

絵画は学芸であるとの認識が何に基づくものであるのかを理解することがポイントです。正解は⑥です。正答率は62%でした。

問8【傍線部の理由 内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

自然物の写生を「栄光の門」に喩えている意図を理解できれば、正解は容易に導けるでしょう。正解は④です。正答率は77%でした。

問9【傍線部の理由 内容理解に関する問題】（解答番号は 35）

傍線部の直後に、「そのことはまた、第二書の自伝の次のくだりからも読み取ることができます。」として引用がありますから、その引用をよく読めば解答が得られます。それは引用文の冒頭に書いてあります。正解は①です。正答率は65%でした。

問10【傍線部の説明 内容理解に関する問題】（解答番号は 36）

次の段落で再度重要事項をまとめて記述しています。やや抽象的な表現を含んでいますが、丁寧に読めば、傍線部の対応箇所ですぐ気づくでしょう。「背伸びした精神のありよう」「大きな地殻変動」などの表現がヒントになります。正解は⑥です。正答率は50%でした。

問11【傍線部の説明 内容理解に関する問題】（解答番号は **37**）

傍線部の「越境」が何を指しているのか、正確に理解できているかどうか鍵になります。正解は⑤です。正答率は62%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は **38**・**39**）

正解は⑤と⑦です。①は「ギルド内の機密を漏洩することで」と言い切っていることが誤りです。②は「ミケランジェロは絵画への傾倒を一門の恥辱でありスキャンダルであると考えていた」が誤りです。③は「修行の最良の方法は実在する栄光の門の写生である」が誤りです。④は「手作業の習熟よりも学的な基礎づけが必要」が誤りです。⑥は「着飾った上流の人々に奉仕する聖職者」が誤りです。⑧は「その理論が誤りを含む未消化な借り物であったため、最初の職人美術家のひとりに位置づけられることになった」が誤りです。⑨は「文化のこの二重構造を打破した」が誤りです。1問正答率は44%で、完全正答率は9%でした。